



NO. 861
 発行
 2015年
 10月15日
 国鉄労働組合
 新潟地方本部
 発行責任者
 上石 昌彦
 編集責任者
 教 宣 部

組織拡大と労働条件改善へ

第68回定期地方大会開く
 9月26日(土)



第68回定期地方大会が、9月26日地本事務所で開催され、この1年間の運動の総括と、当面する運動方針を代議員の真摯な討論で確立しました。

大会では延べ14名の代議員から職場の問題点、状況の報告や出向先の労働条件など「ときとつ」開業以降の実態報告が、それぞれ発言されました。

来賓には、日本共産党新潟県委員会・田中副委員長、新社会党・小林委員長、退職者組合・新潟地

上石委員長あいさつ

闘う国労の
 伝統を守って
 いこう

政治状況が大変な状況になっている。安保法制が強行採決された。全国で反対の運動が広がり集会やデモなど取り組まれている。継続した闘いを展開していかなければならない。

安倍内閣は国民に対して説明不足だ。安保法制に対して80%の国民が反対している。国民の命を守ると言っているが米国の言いなりだ。労働法制の改悪、TPP、社会保障など大多数の国民に背を向けた政治だ、打倒安倍内閣。

組織拡大について、各地方で拡大行動が取り組まれているが、新潟では厳しい状況が続いている。組織拡大に向けて地方本部は先頭に立って取り組んでいく。1年間、支部体制を凍結し地本役員の任期を1年間とする。今後の役員体制を考えていく。7月30日に動労総連新潟が発足した。それに伴って7月20日付で2人脱退した。再度、国労への団結と結集をお願いしたい。査問委員会の設置を今大会で提案する。

さまざまな問題、職場の労働条件など大会で発言をお願いしたい。闘う国労の伝統を守っていこう。

連・守橋事務局長が、出席していただきました。



議長 儀藤代議員

議長は新潟県支部の儀藤代議員を選出しました。その後、上石委員長をあいさつ、来賓のあいさつ、



東日本本部から武笠執行委員が出席し、あいさつがありました。

大会は、午前中まで方針提案・財政報告・午後から規約改正、査問委員会の設置など提案され、質疑・討論に入りました。

今年、役選の年、選管からの提案もありました。



全体の意見

○「ときとつ」へ出向している。1ヶ月間は、バタバタしたがやっと落ち着いた。職場要求については改善されている。しかし、新幹線の接続、駅の設備について、駅の2階にトイレが無いこと。駅周辺が開発されていない。など利用者からの苦情が毎日ある。

北陸新幹線の接続が悪いので、社長が独断で改善することをマスコミに発表した。職場の社員には説明していない。上越市に駅の2階にトイレが無いこと・駅の案内表示が良くないことなど要望したが改善されない。第三セクターだが市の対応が悪い。



●「ときとつ」へ出向している。直江津運転センターの問題点、車両の検査切れ、運転適正検査の資格取得していない社員に車両の誘導をさせている。車掌についても運転適正が切れているのに乗務させている。会社は定期健康診断も実施していない。

乗務員の教育訓練は、JRは2年に1度、実施しているが、それもまったくない。新採者(フーパー)は2ヶ月間、駅の業務を行い、その後、運転センターで2週間の机上教育で車掌見習いをさせる。

教育期間が短いのは、経費がかかるから体力が無いから、JR並みの教育ができない。短期間の教育期間で乗務させている。

社長のマスクコミ発表について、労働条件の変更やイベント開催など社員に説明がない。10月17日のイベント開催についてマスクコミ発表したが社員には説明が無く内容がわからない。出勤準備の社員に対して会議など出席させている。6ヶ月が過ぎてから多く発生している。



朝の点呼で、JRからの出向者の賃金が高いからプロパーを多く採用して教育させると社長が言っている。現場管理者が話している。出向者の賃金の比率はどのくらいなのか？JRからの出向者の賃金の取り扱いはどうなっているのか。



2015年地方本部役員

- 執行委員長
- 執行副委員長
- 書記長
- 執行委員
- 会計監査
- 地方委員

- 昌彦 透雅彦
- 上石 佐藤福富
- 秀夫 聡明人
- 加藤 荒井藤井
- 伸一 太郎
- 木村 鷲尾
- 朋夫 伸彦徹一幸
- 井田 真桑新野豆



●職場では退職する社員が多くなっていく。現在61名だが5年後には29名に達する。大幅に要員が減少し要員の確保ができない。
 新人が1人前になるまで7年の経験が必要だ。技術継承ができない。安全やサービスが守られない現状だ。ICI業務サービス・モニタリングはどうなるのか・業務内容は？

●組合員数が減少し支部の機能が果たせない。JRが線閉止会いと分岐器の検査をしている。しっかりと検査業務が出来ない。

○エルダーの仕事先の数が少なくなっている。NTSへの出向が少なくなっている。

●職場の7割が平成採になっている。要員不足だ。業研などへ若い社員を参加させているので要員不足にならなさらぬ状況だ。車掌になって2年で、その後、運転士になっていくので車掌職が定着しない。スペシャリストを養成できない。ペテラン車掌が退職し少なくなっている。ワンマン化の導入が実施される。電車の653系のトイレの故障が多い。部品が無いため修繕できない。115系のトイレの故障も多く部品



が無いため修繕できない。改善されていない。故障のまま何ヶ月も運用している。
 ときてつゝ上越妙高駅での乗換えが判りづらい。「しらゆき」が遅れると接続が難しくなる。第三セクターのキップ購入が難しい。状況によってキップが売れない。



○115系のpan集電舟・スリ板の取り付けネジが、外れているのが多数発見された。panスリ板装置で点検しているので社員が検査していない。機械では、それを見つけれない。スリ板の取り付けネジのトルクが違っていたのが原因だ。
 電車129系仕業検査時分が2両で25分になっているが、25分では検査ができない。他の職場は、どうやっているのか？新潟車両センターも支社に言ったが新車は作業時分を伸ばせないとやっている。会社は検査の基準内容をやるよう指示している。

●検修外注化がはじまって3年、元職場に戻る時期になる。今後のJR東からの出向が無い。プロパー、エルダーなどが配属させる。技術力についてどうなのか。第三セクターのキップ購入について、第三セクターまたがりのキップ販売はしない。キップの精算ができない。



地本大会の特集になりました。次号も地本大会の特集になります。
 第68回定期大会で新しく執行体制が確立しました。規約改正で任期は1年ですが、せいっぱいがんばっていく決意です。
 地本 教宣部